



プロジェクトがいよいよ始まりました！

「まちの担い手づくりプロジェクト」は福井駅前の再開発事業や商店街活性化のまちづくりが進む中、地域や市民団体、専門家、学生、行政など多様な主体が協力して「みんなのために何が出来るのか」を考え、まちづくりに結びつける手法を学ぶことを目的としています。全5回の講座は、様々なテーマに沿った講義とテーブルワークによって進められます。3月24日（土）、第1回目がいよいよスタートしました。その模様をお伝えします。

第1回

まちの 担い手づくり プロジェクト

プロジェクト概要



【日時】2012年3月24日（土）
【会場】福井県協ビル6階603号室
【参加者】計64名
（市民団体や商店街でまちづくりに取り組んでいる方、事業を展開されている方、大学の先生、学生さん、行政職員の方など）
【講師】醍醐孝典氏
（株式会社 studio-L）

プログラム



【開会あいさつ】
【講義】「福井のまちづくり」について
（まちづくり福井：岩崎正夫氏）
【講義】「近年のまちづくりの背景について」
（株式会社 studio-L：醍醐孝典氏）
【テーブルワーク（ワールドカフェ）】
「プロジェクトで得たいこと、感想」
【閉会あいさつ】

講義



はじめに、まちづくり福井株式会社の岩崎正夫さんより「福井市中心市街地におけるまちづくりの現状」のお話がありました。福井の商業の郊外化の背景や、まちの活性化のために展開されている現在の取組み（福井駅周辺再開発事業、片町や浜町の取組み、県と市による2050年の計画づくりなど）について説明がありました。



続いて、studio-Lの醍醐孝典さんより、現在の日本の時代背景（人口減少や、行政財源の縮減など）と、市民の活動がまちの活気づくりにつながっているプロジェクトの紹介がありました。鹿児島や延岡での取組みが事例として挙げられ、いずれも行政に頼る「お客さん市民」ではなく、住民が楽しみながら公共的なサービスの一端を担っており、その結果、地域が元気になっていることが特徴的でした。



テーブルワークの振り返り

講義の後は、「喪失体験」というアイスブレイクゲームがありました。その後、各テーブルで自己紹介と、さらに意見交換が行われました。「今回のプロジェクトで得たいこと」と「今日の感想」について付箋に書きだし、それを元に意見を述べ合いました。皆さん今後へ向けての意欲満々で、「120分の講座時間では足りない」というような前向きなコメントが多数集まりました。以下に、ワークショップで出た代表的な意見を紹介します。

テーブルワーク1



「今回のプロジェクトで得たいこと」

【手法やノウハウを学びたい】

- コミュニティデザインのノウハウを知りたい
- 人が集まる仕組みや仕掛け、地域活性化の方法を教わりたい
- 活動とお金（収益）との関係（マネジメント）を学びたい

【いろいろな人と知り合って意見交換をしたい】

- 福井でいろんなことをやっている人と知り合いたい
- 中心市街地活性化のアイデアを様々な視点で議論したい

【具体的なプランの作成や活動をしたい】

- フィールドワークを通してプラン作成してみたい
- 親子で楽しめる街づくり、老人へのバスの補助チケットなどの取り組み
- 自分も福井で何かやりたい、そのための種を見つけたい

【魅力を発見したい】

- 福井の誇れるものを探したい
- 日常生活に結びついた駅前中心市街地へ変えていきたい
- 足羽地区の活かし方や、片町の賑わいについて考えたい

【まち(づくり)の情報を収集したい】

- いろんな情報（福井内外にちて）を知りたい
- 広い視野で考えて自分の仕事に活かせるようにしたい



テーブルワーク2



「今日の感想」

- 5回の講座が終了した先の展開を期待したい。
- まちづくりには時代背景を捉えることが大切だとわかった。
- 意見交換を通じてコミュニケーションの重要性を確認した。
- 活動人口を増やすことが交流人口、居住人口を増やすことになるという考え方は新発見だった。
- いろいろな事例を参考に福井に合うスタイルを見つけたい。
- 老若男女、多様な参加者で驚きました。
- 狭い、暑い、でも面白かった。